

平成30年度舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成30年12月7日(金) 13:00 ~ 15:26

2. 場 所 : 舞鶴工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 : 外部評価委員会委員

長岡技術科学大学	学長	東 信彦
明石工業高等専門学校	校長	笠井 秀明
舞鶴市中学校長会	会長	山口 茂
舞鶴市政策推進部	部長	西嶋 久勝
株式会社日進製作所	総務部長	田中 孝幸
京都新聞舞鶴支局	支局長	多和 常雄
舞鶴工業高等専門学校	後援会長	番場 隆史

学内出席者

内海校長(評価委員会委員長)、高谷教務主事、小野学生主事、
仲川寮務主事、川田専攻科長、四蔵評価委員会副委員長、
玉田地域共同テクノセンター長、竹澤電気情報工学科長、
野間電子制御工学科長、背戸柳自然科学部門長、西山企画室長、
桑原事務部長、窪田総務課長、松梨学生課長

発表者

内海校長、高谷教務主事、小野学生主事、玉田地域共同テクノセンター長

4. 校長冒頭挨拶

議事に先立ち、内海校長から挨拶があった後、議題について説明が行われた。

5. 委員の紹介

四蔵評価委員会副委員長より委員の紹介及び資料の説明が行われた。

6. 委員長選出

本校外部評価委員会規程第5条に基づき、委員の互選により東委員が委員長に選出された。

7. 状況説明・質疑応答

(1) 舞鶴高専について

内海校長より配布資料に基づき説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

笠井委員より、大きな視点で見れば舞鶴を含む地域は国としても重要な地域であると考えており、少子高齢化が進む中で高専には若い人材が集まってくることから、舞鶴高専だけ

が頑張るのではなく、自治体や民間企業も一体となって地域を盛り上げていく必要があると意見があった。

西嶋委員より舞鶴は高専、海上自衛隊や海上保安学校等の各種機関が立地しており、日本海側の拠点として活性化していくことが重要であると考えており、市としても産官学連携をはじめとして様々な場面で協力していきたいと意見があった。

東委員長より高専を応援する議員連盟もあり、地域活性化の中核になってほしいと意見があった。

(2) 教務関係について

高谷教務主事より配布資料に基づき説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

笠井委員より留年・退学についてよく分析されていると意見があった。また、入学説明会など入学者の確保についてどうしているかと質問があり、高谷教務主事より学生が説明する方が身近に感じてもらえるので、その方法を取っていると回答があった。

東委員長からも学生が生活の説明をするのは評判が良いと意見があった。

多和委員から留年・退学の原因を分析された結果、どのようなことが原因になっていると考えているか質問があり、高谷教務主事よりマークシートでの入試になったことでレポートが書けないなど学力低下が見られること、対策として内申書を重視することなどに取り組んでいると回答があった。

東委員長より教科書が読めない学生など全般的に学力低下の傾向がみられる中で先生の負担が増えているのではないかと考えているが舞鶴高専ではどう対応されているか質問があり、高谷教務主事より専攻科生にTAとして活躍してもらい教員の負担を減らすなど行っていると回答があった。学力低下については学力補充の一環として放課後教室等の実施を通じて対応していると回答があった。

山口委員より出前講義等を通じて、直接高専の学生さんの声を小学校高学年、中学校1年生の段階で紹介していただければ入試広報として効果的ではないかと意見があった。

また、舞鶴高専独自の入試制度を検討されているかと質問があり、高谷教務主事より他高専ではAO入試等の独自入試を実施しているところもあるが、本校では実施していないと回答があった。

内海校長から科学技術振興機構が実施しているジュニアドクター事業について説明があった。

(3) 学生生活に関する指導・支援の取り組み、本学学寮「鶴友寮」について

小野学生主事より配布資料に基づき説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

笠井委員より女子寮の拡張は女子学生の増加と関連があるかと質問があり、小野学生主事

より女子学生が増加しているとの回答があった。

多和委員より舞鶴高専は様々な取組をされているが、広報体制が弱いのではないかと、学生の取組、産学連携やイベント情報を舞鶴市の記者クラブを利用するなどして積極的かつ丁寧に広報されてはどうかと意見があった。また、寮に600人もいるのなら、日頃からまちなかに学生が出ていくことで地域が活性化するような取組みが出来ないかと意見があった。

番場委員より寮がより良くなるような取組みを引き続き考えて欲しいと意見があった。

(4) COC、COC+事業について

玉田地域共同テクノセンター長より配布資料に基づき説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

笠井委員よりCOC+事業について地域志向の取組が定着する可能性が高まってきていると意見があった。

西嶋委員より舞鶴市としても色々な課題がある中で舞鶴高専と連携して取り組んでいきたい、学生の地域志向を高めて地元定着率の向上を目指したいと意見があった。

田中委員より舞鶴高専卒業生の中には会社の次代の中核事業の開発に従事している者もあり大変優秀な人材が多いことから、地元定着の取組みをより拡充して欲しいと意見があり、玉田地域共同テクノセンター長から、現在、学生に地元地域にある企業の紹介をすべく、冊子を作成中であると回答があった。

山口委員より高専の学生と中学校の生徒が交流できる機会を設けて相互理解を深めることができれば良い、中学校長会の場合などで中学校の教員が高専を知る機会を作って欲しいとの意見があった。

(5) 総括

東委員長より以下のとおり総括が行われた。

- (1) 舞鶴高専について地域の核になって欲しい。
- (2) 教務関係について、就学支援の必要な学生が増加する中、補習、留年対策や新カリキュラムの取組み等は継続していただきたい。
中学校側からは学年の早い段階で高専の説明をお願いしたいこと、高専の特徴的な入試制度も検討をお願いしたい。
- (3) 学生生活に関する指導・支援の取組み、本学学寮「鶴友寮」については、学生アンケートで高専の生活に馴染める学生の割合が高いとの結果がでており、今後も学生の個性を伸ばす取組みを継続して欲しい。女子学生が増加していることは良いこと。も

っと広報活動に取り組んで欲しい。

- (4) COC、COC+事業については、地域連携が必要、就職は地元でなく大企業に行く傾向、学生が地元に行く取り組みも必要。また、大企業が良いと思う親の意識改革も必要。

8. 校長閉会挨拶

内海校長から、お礼の言葉が述べられ閉会となった。